

第6学年 社会科の実践

1 単元名 戦争から平和への歩みを見直そう

中単元「戦争と人々の暮らし」

2 中単元目標

○戦中・戦後の社会の様子と、人々の暮らしや思いについて興味・関心を深めることができるようにする。

関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
戦争中の人々の暮らしの様子について興味を持ち、自ら進んで調べ、考えようとする。	戦争の経緯や国民生活の様子について調べ、それがどのような背景のもとで、何を意図して行われたのかを考えることができる。	様々な資料を活用して、具体的事例やエピソードを調べ、その時代を生きた人々の思いを工夫して表現することができる。	戦争によって国民の生活に大きな被害が及ぼされたことを理解することができる。

3 ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

(1) 単元と指導

① 単元について

6 学年の目標(3)には「社会的事象を具体的に調査するとともに、地図や地球儀、年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、社会的事象の意味をより広い視野から考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。」とある。また、内容(1)ーケには、「日華事変、我が国にかかわる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピックの開催などについて調べ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かること。」とある。

本中単元では、戦争の敬意やそれが拡大していく状況、被害の大きさなどから、戦争の悲惨さや日本とアジアの関わりについて考えるとともに、その時代の社会の様子や人々の暮らしについて調べ、国内外の被害の状況について理解することができることをねらいとしている。

② 指導について

研究テーマ「ひびき合う三の丸の子どもたち」

研究課題

切実な問題意識を持ち、友だちと関わり合いながら学習する子どもの育成

手だて

子どもの「切実な問題」を見取った授業づくり

歴史を学ぶ上で、児童が必然性を持つのは難しい。現代の社会とあまりにもかけ離れている社会についての学習だからである。そこで、児童が必然性を持って、主体的に学習を進めるために「自分がこの時代にいたら・・・」「自分だったら・・・」「今は平和なのか。」等と常に自分自身の身近な問題として取らせられるようにしていきたい。

また、児童が「切実な問題」として課題に取り組むためには、課題に「こだわり」を持って取り組むことが大切であると考え。そのためには、歴史的事象に対して、ある程度の知識がないと何を学習すれば良いのか見通しが持てないと考えた。

そこで、中単元の最初に調べ学習を位置づける。教科書における本中単元は「中国との戦争が始まる」「アジア・太平洋に広がる戦争」「戦争中の子どもの暮らし」「身近な地域と戦争」「戦争と国民生活の変化」「沖縄・広島・長崎、そして敗戦」から構成されている。今までも6年生が学習する歴史に関して、一番端的に分かりやすくまとめたある書物が教科書であることを伝えている。また、その教科書の補助として資料集があると伝えている。まず、教科書と資料集を読み、戦争や事件についてまとめていく活動を通して思考の土台を築きたい。

2次では、事件や事象が起こった時の国民の様子や暮らしについて課題を設定し、その課題を調べ学習を通して解決していく。

課題設定の場面では、2枚の学童疎開についての写真を提示し、その写真から読み取れる事実を出し合う。写真は、戦時中の暮らし(食料の危機・命の危機)が読み取れる写真を提示する。提示した写真に対して興味を示し、読み取っていく活動が知的好奇心へとつながるのではないかと考える。

そして、出てきた事実と事実をつなぎながら「分かったこと(読み取れること)」や「疑問に思うこと」を出し合う。ここで出てきた「疑問に思うこと」が次時からの調べ学習の課題となる。また、この疑問を調べることによって分かることを話し合い、学級のテーマとして次時からの調べ学習に入っていく。この話し合いによって、疑問が児童自身の課題となり、こだわりのある課題(子どもの切実な問題)になるのではないかと考える。

調べ学習の際は、小田原市の戦時中の写真や当時の動画なども用意し、戦争を少しでも身近に感じられるようにする。また、常に「自分だったらどうなのか」自問自答しながらまとめていけるようにする。

中単元の最後には、調べたことを発表する際は、児童が好むポスターセッション形式で行う。ここでも聞き手は、歴史的事象について自問自答しながら友だちの発表を聞くようにする。

(2) 手だてについて

今回の学習では、授業のあり方について『教師の与えた教材から、子どもの問題意識が生まれる学習（第1回校内研提案；授業のあり方①）』を取り入れた単元構成にしている。研究の手だてである「子どもの切実な問題になるための見取り」については、次のように行う。

時	学習内容	見取りの視点	教師の支援
1 2	教科書 からの 調べ学習	・何に興味を示しているか ・何を調べているか ・意欲的にまとめているか ・意欲的に取り組むために必要な物	・写真・表・地図などから読み取れることのヒント ・必要に応じた資料
3	知識の共有	・次時からの学習（更なる疑問）	
4 本 時	課題設定	・写真から読み取れる疑問 ・設定した課題 ・課題を調べることで分かること	※当日、別紙にて詳細を掲載する
5 6 7	課題に ついての 調べ学習	・何に興味を示しているか ・何を調べているか ・意欲的にまとめているか ・意欲的に取り組むために必要な物 ・テーマを意識して調べているか、考えているか	・課題に沿った資料 ・資料から読み取れることのヒント ・必要に応じて資料の解説 ・ビデオや写真
8	発表会	・どの資料（発表）に興味を示したか ・発表を聞いてどのような疑問を持ったか	・発表の場 ・質問に対する補助

4 単元指導計画（全8時間）

次	時	学習活動	評価基準
1	1 2 3	○戦争や事件について知る。 知りたい事実を調べ、新聞形式で事実・分かったこと・疑問について考え、まとめる。 ・満州事変 ・5/15 事件 ・2/26 事件 ・第2次世界大戦 ・真珠湾攻撃 ・沖縄上陸 ・東京大空襲 ・2度の原子爆弾投下 ○調べたこと以外の事実について知る。 友だちが調べたことについても知る。 (友達が集めた資料を見ながら当時の事件や事実など時代を追いながら簡単にまとめる)	【関心・意欲・態度】 戦争や事件について興味を持ち、自ら進んで調べ、考えようとする。 【知識・理解】 戦争が拡大し、相手国や地域が広がっていったことを理解することができる。 【社会的な思考・判断】 戦争によってアジアの国々が受けた被害について考えることができる。 【資料活用の技能・表現】 教科書や資料集などから具体的事例を調べ、工夫して表現することができる。
2	4 本 時	○課題を設定する。 学童疎開の写真から疑問を持ち、これから調べる戦時中の暮らしについて共通のテーマを持つ。 ○戦時中の暮らしについて知る。 資料やビデオ・写真などから当時の暮らしを読み取り、調べたいことについてまとめる。	【社会的な思考・判断】 写真から分かる時代背景を読み取り、疑問に思うことを考えることができる。 【関心・意欲・態度】 戦時中の暮らしについて調べたい課題を決め、それを調べることで見えてくるものを考えようとする ことができる。 【関心・意欲・態度】 戦時中の暮らしや生活について興味を持ち、自ら進んで調べ、考えようとする。

5	・学童疎開 ・食料・食事 ・教科書・学習(なぎなたの訓練) ・家族・召集令状	【社会的な思考・判断】 国民生活の様子について調べ、戦争がどのような背景のもとで行われたのかを考えることができる。
6	・服装 ・家 ・街(町)の様子	【資料活用の技能・表現】 様々な資料を調べたり、語り部(ゲストティーチャー)の話を聞いて、その時代を生きた人々の暮らしや様子を工夫して表現することができる。
7	・資源 ・願い ・玩具(青い目の人形) などをとおして、現在の暮らしと比較しながら、当時の人々が、戦争のことをどう思っていたのか考える。	【知識・理解】 戦争によって国民の生活に大きな被害が及ぼされたことを理解することができる。
3	8 ○調べたこと以外の生活について知り、戦時中の暮らしについて考えを深める。 - 発表会(ポスターセッション形式)	【社会的な思考・判断】 戦争がどのような背景のもとで行われたのかを考えることができる。 【関心・意欲・態度】 友だちの発表する内容に興味を持ち、意欲的に質問をすることができる。

5 本時について

(1) 本時の目標

学童疎開の写真を見て疑問を持ち、戦時中の暮らしについて知りたいと思う共通のテーマを考える。

(2) 本時展開

学習内容	指導上の支援・評価
1 写真から分かる事実を出す。 ○この写真に見えるものは何か。 ①の写真 ・汽車に乗っているのは子どもが多い。 ・何も手に持っていない子もいる。 ・長髪がない。 ・たくさんの人が乗っている。 ・「疎开学童専用車」の旗がある。 ・様々な学校の帽子をかぶっている。 ・家族がない。 ・たくさんの荷物を持っている人と何も持っていない人がいる。 ②の写真 ・真剣に手を合わせている。 ・テーブルがない。 ・意外と食べるものが多い。 ・みんな半袖。 ・大人がない。	・戦時中の暮らしが読み取れる写真を提示する。 ・当時どんな暮らしをしていたのか考えやすいように同世代(子ども)が写っている写真を提示する。 「学童疎開」の写真2枚(教科書 P.97 より)  ・戦時中の暮らしについて写真から読み取れる事実のみを取り上げる。 【疎開先へ向かう子どもたち】  【疎開先での食事】
2 出てきた事実をつながけながら分かることと疑問を考える。 《分かること》 ・たくさんの人が一斉に疎開した。 ・子どもだけが疎開した。 ・暑い時期に疎開した。 《疑問》 ・何のために疎開したのだろう。 ・どこへ疎開したのだろう。 ・なぜ子どもだけなんだろう。 ・家族はどうしているのだろう。 ・どんな物を持って疎開したのだろう。 ・どんなものを食べていたのだろう。	・写真から分かることと疑問について自分の考えを全体場で出しあう。 ・必要に応じてグループ(近所)で話し合う。

・疎開先でどんな勉強をしていたのだろう。 ・どんな家で生活していたのだろう。 ・疎開先はどんなところだろう。 ・疎開することをどう思っていたのだろう。 3 出てきた疑問から調べてみたいことを決め、それを調べることで、何が分かるのか考える。 ○個人の課題を決める。 ○個人の課題を追求することで何が見えてくるのかを考える。 4 次時のテーマと個人の課題を確認する。	・出ている考えと同じ意見を出し合う。 ・個人の課題を追求するだけでなく、それぞれが調べることで見えてくる当時の人々の考えや思いを学級のテーマとして設定する。 例；当時の人々は、戦争のことをどう思っていたのか。 ・個人の課題とそれを調べることで見えてくるものについて個人で考え、全体で話し合う。 ・全体の場で「見えてくるもの」についての意見が出にくい場合は、グループ(近所)で話し合う。 【社会的な思考・判断】 写真から分かる時代背景を読み取り、疑問に思うことを考えることができたか。 【関心・意欲・態度】 戦時中の暮らしについて調べたい課題を決め、それを調べることで見えてくるものを考えようとすることができたか。 ・学習シート(個人用)に記入できるようにする。
--	--

6 実践を終えて

○単元作り

調べ学習を中心に行った。調べ学習では、児童の「調べたい」という思いを大切にするためグループではなく、個人で行った。1次では、児童が何に興味を示しているかを見取り、教科書や資料集だけでは見えない部分を調べたいと思っている児童のために、資料(本やインターネットなどから取り寄せた資料など)のコーナーを作り、意欲的に調べられるようにした。また、調べながら生まれた疑問に対する回答を資料から調べられるように適宜資料の追加を行った。2次では、戦時中のくらしについて身近に感じられるように小田原の戦時中の様子が分かる資料や写真・学校にあった当時の写真を掲示した。資料や写真から読み取れる内容だけでなく、積極的に家で資料を探したり、祖父母から話を聞いてきたりしている姿がたくさん見られた。

○本時の課題について

当時のくらしに目を向けるため、2枚の学童疎開についての写真(教科書から)を用意した。指導案にも記したが、歴史の学習は、現代の社会とあまりにもかけ離れている社会についての学習のため、児童が必然性を持つのは難しい。歴史学習で、切実感を持つためには、歴史的事象をできるだけ身近に感じ、同化することが必要だと考える。

本時では、たくさんの戦時中のくらしが見える写真の中から、学童疎開の写真に絞った。これは、戦争という現代とかけ離れた時代について異化して考えがちになるなか、写真に写っているのがほとんど同世代の児童のため、同化して考えやすいのではないかと考えたからである。また、当時、小田原へ疎開してきた話や小田原から疎開した話の両方が多く、すでに多くの児童がその情報を耳にしていることから、身近な問題としてとらえやすいのではないかという思いからである。

写真を提示する方法は、インパクトもあり、興味を持って取り組んでいた。また、学童疎開という選択も身近な小田原の当時のくらしが見えやすい材料で、同世代の写真だったため、異化だけでなく同化しながら考えやすく、本時の課題としては切実なものとなっていたように思う。

○成果と課題

- ・写真を掲示する方法は、インパクトがあり、児童も興味を持って取り組めた。提示した写真が教科書のコピーだったため、細部まで見えにくかった。最初から手元の教科書の写真を見られるようにする必要があった。
- ・個人の疑問から学級のテーマを考える場面をひびき合う場として設定したが、今回の思考の流れでは、難しすぎた。また、発問も適切ではなかった。
- ・その場で思いついた(考えた)個人の考えを全体の場に広げながらひびき合うことを求めると、ごく一部の児童の発言に偏ってしまう。本時の中でも個人の考えの段階でこだわりが持てるような手だてが必要である。